

AIMaP 研究集会等実施報告書

(Part 1/4) 名称・重点テーマ・キーワード等

項目	内容
名称	令和の時代における数理科学の社会的役割
採択番号	2019A011
重点テーマ	社会が求める数学・数理科学、社会・産業に数学・数理科学がどのように貢献できるか？
キーワード	数理的人材、リカレント教育
主催機関	金沢大学理工研究域数物科学系
運営責任者	小原功任
開催日時(開始)	2019/11/21 14:00
開催日時(終了)	2019/11/22 12:30
開催場所	金沢大学自然科学5号館大講義室および223号室

(Part 2/4) 最終プログラム・参加者数

項目	内容
最終 プログラム	11月21日(木)(自然科学5号館大講義室)
	14:00 開会(開会挨拶: 理工研究域長 青木健一)
	14:00--14:45 数理資本主義の時代 中野剛志氏(経済産業省参事官)
	15:00--15:45 《数理資本主義の時代》を読む～数学イノベーションの役割と責任 鈴木貴氏(大阪大学数理・データ科学教育研究センター特任教授)
	16:00--16:45 これからのデータサイエンス産業を支える人材像と数理科学教育への期待 広明敏彦氏(NEC データサイエンス研究所所長)
	17:00--17:45 パネルディスカッション (パネラー: 中野剛志氏, 鈴木貴氏, 広明敏彦氏, 司会: 木村正人氏)

	<p>11月22日(金)(自然科学5号館223号室)</p> <p>9:45--10:15 数理的人材育成:理数1の取り組みと私の挑戦 大塚浩史氏(金沢大学数物科学系)</p> <p>10:15--10:45 ものづくりの数学とリカレント教育 松谷茂樹氏(金沢大学電子情報通信学系)</p> <p>11:00--11:30 粒子法シミュレータの開発と産業分野への適用について 風間正喜氏(富士通)</p> <p>11:30--12:00 応用問題のための高品質数値シミュレーション手法のデザイン 野津裕史氏(金沢大学数物科学系)</p> <p>12:15 閉会</p>
参加者数	数学・数理科学:39人, 諸科学:9人, 産業界:3人, その他:3人

(Part 3/4) 論点・現状・今後の展開

項目	内容
当日の論点	<ul style="list-style-type: none"> ・数理資本主義の出現と先進各国における現状、我が国の課題 ・日本の数学研究を取り巻く状況 ・数学イノベーション、数学と諸分野との連携 ・金沢大学における数学研究とその課題 ・ものづくりの数学とリカレント教育、産業界からの要請
研究の現状と課題 (既にできていること、できていないことの切り分け)	<p>現状、大学における数学研究の水準は世界トップクラスを維持している。しかしながら、米国などと比較すると研究費の総額は低水準で、また研究環境の悪化も続いている。さらに博士取得者の少なさ、企業における数学研究者が不足していることなどが、我が国の課題であると指摘された。数学の産業界ニーズの普及および研究者の育成にむけた、政府や各大学の取り組みも道半ばである。</p>
新たに明らかになった課題	<p>大学と産業界を結びつけるキャリアパスが不足していることが指摘された。</p>
今後解決すべきこと、今後の展開・フォローアップ	<p>先進各国では早くから数学研究が経済への貢献を行っていることが指摘されていたが、我が国では産学の連携が十分ではなかった。しかしながら我が国の学生・企業研究者のスキル・水準は他国に劣るものでは決してなく、大学と産業界を結びつけるキャリアパスの育成や、企業による博士後期課程への進学支援、企業研究者へのリカレント教育などの方策が急がれる。</p>

(Part 4/4) 写真

項目	内容
添付写真 1	
添付写真 2	
添付写真 3	